

学生による授業評価

東京大学健康教育学研究室 東 郷 正 美

Evaluation of a Lecture on Educational Health by Students

Masami TOGO

In order to improve lectures on educational health at the Faculty of Education, the University of Tokyo, evaluation of the lecture by the students was carried out. A questionnaire was answered by them during the last 10 minutes of each lecture time in the summer semester 1993.

The pros and cons were stated and most of their evaluations were proved to be so useful to improve the lecture.

目 次

- I. はじめに
- II. 対象と方法
- III. 健康教育学概論の講義要旨
- IV. 学生の評価
 - A. 五段階評価による六項目の評点
 - B. 100点満点での採点
 - C. 自由記入欄に記述された内容
- V. おわりに

I. はじめに

学生による授業評価を受けようと思いたったきっかけは、自分の出身である公衆衛生学の分野で、医学生への教育に熱心な産業医大公衆衛生学の華表宏有教授の学生による授業評価の研究^{1, 2)}を知ってからである。

もう一つは、授業はいかに進めるべきかのいろはも知らず、自己流でやって来た事に対する後めたさが特に教育学部に移ってきてから次第に強まってきた。医学教育は職業教育であり、学生に何を学ばせるかの大枠が決まっています。教え方の上手・下手は内々に囁やかれる程度で、大きな話題にはならなかった。従って見よう見真似でやってきて、大過なく過せたと自分もそう思い、他人もそう思っているに違いない。この医学教育の世界で、華表教授をはじめ、医学教育について関心をもつ人が徐々に増えて、真正面から教育に取り組む活動が活発になってきた。

公衆衛生学とは、本来健康な人の世話をする領域で、

教育は公衆衛生学を支える大きな柱の一つである。公衆衛生学の一つの分野である産業医学も、大部分が健康で働いている人々が対象であり、教育は産業医学活動での大きな力である。

医学の世界で教育、特に医学部での教育が問題となってきたのは、医師の国家試験の成績が口火となっている。長時間、多額の費用、多くの労力を費やして行なわれる医学教育が、いやでも国家試験の合格率で大学ごとに評価される。合格率を上昇させる為には学生の出席率を上げる事が先決であり、出欠を厳格にとると同時に、効果が上るような授業が求められる。そして学生による授業の評価が公式なものとして行なわれている大学もある。職業教育であるという性格上、外圧による評価とも言えよう。

自分の立場を考えてみると、教育学にはずぶの素人であり、職業教育には結びつかない教育をし、しかも天下の東大教育学部の真只中に身を置いているので、自分の授業を評価してもらい、学部の専門家の批判を受け、教示を仰げば自分の授業が少しは良くなるのではないかと期待していた。

もう一つの動機は、授業中質問を促しても発言する人は極端に少なく、のれんに腕押しで、果して理解してもらっているのだろうか、誤解してないだろうか、面白いと思って聞いてくれているのだろうか、退屈しているのだろうか素人の悲しさで分らない。一限であることもあり、居眠りしている学生もいて、居眠りする程つまらない授業なのか、眠たいのを我慢して一限から出席する学生も居るのだから、学生を引き付ける魅力があるいはあるのかもしれないと我田引水の解釈をしたりしていた。

以前附属のベテランの先生に、授業中にうなずきながら聞いている生徒は分っているのでしょうかとうかがったら、そんな事はないと教えていただき、学生の反応がないのは不安の種子であった。あるいは学生には反応があり、それを教師に発信しているのかもしれないが、教師の側にそれを受信する能力がないと、自分の事は棚に上げて、相手が発信していないと思い違いをしているのかもしれない。

授業による評価を学生にしてもらおう事は、自分の欠点を発見する事であり、しかもそれを公表する事は天下に自分の欠陥を曝す事でもある。私は院生や学生の前で、自分の失敗をかくさない。過ちは人の常であって、熱心に研究していれば、それに応じて過ちも多くなる。若い研究者の方が、自分よりよく知っていたり、よい腕を持っていたりもする。そのような時には遠慮なく教えてもらったり、助けてもらったりもするし、自分の過ちを指摘してもらったりもする。これはお互いに切磋琢磨する事になる。常にこのように考えもし、実行もしているので、学生の評価を公表するのも決して渋々とするわけではない。ただし、自分の都合のよい評価を大きく取り上げ、都合の悪い事はかくすか、小さくしか扱わないのではないかと、痛くもない腹を探られないように、アンケート要旨に記入された内容を取捨選択する事なく、すべてを公表する事にした。その為、多少冗長になったきらいはある。

II. 対象と方法

対象は1993年度の健康教育学概論に出席した学生で、三年生が多いが、院生もいるし、留学生もいる。

学生に、アンケート用紙を配布して記入してもらった了解を得た。その為に、1限の終了する10分前の10時に授業を打ち切って、アンケートの記入をしてもらった。これは無記名であり、ここに用紙を示す。このお手本は華表教授が作成され、使用されて何度か改訂された結果出来たものをいただき、授業の題目名のところだけを健康教育学に変更しただけのものである。

それと同時に、これも学生の同意を得て、自分の授業の内容をウォークマンに録音した。操作ミスをして、一言も録音されていなかった事もあった。

これはいかに授業を進めたかの記録になると考えたからである。そしてテープをおこして文字にしておくつもりだったが、実現したのはごくわずかに過ぎない。テープの爪を切ってテープを保存してある。従って、どのような授業が行なわれ、それに対して学生がどのように反

映したかを再現する可能性はあるが、実現されなかった。しかしどのような主旨で、どのような考えに沿って授業をしたのかという荒筋は、次章で述べる。

授業の完結としての最終回における学期末の試験の前に、学生に同意してもらって、今回の講義についての代りに今日の試験についてのアンケートを書いてもらった。これは出題されたものが適切であったか否かの判断に役に立つと考えたからである。講義が十二回、試験一回で全十三回の記録である。

この結果をまとめるのは、次下の方法によった。まず五段階評価法による1から6までの項目にチェックしてもらったのは、最も高い評価が与えられる左端欄へのチェックを5点、最も低い評価の右端を1点として、左から右へ5, 4, 3, 2, 1の得点を与えた。この得点に概算したものを、6問の夫々について回答者全員の平均を求めた。ここでは個個人の記録には触れない。但し、コピーなどの教材を配布しなかった時は、得点はない。これらの計算結果を13回の授業と試験ごとにIV章で表2に示す。

次に自由記入欄の記述を、肯定的なものに否定的・批判的なもの、そのどちらとも分けかねるものの三つに分類した。語句の変更は最小限にとどめて三つに区分し、各回ごとに資料1に示してある。これには、その意見の主な授業に対する100点満点での数値による評価も添えてある。自由記入欄に何も記述しなかった学生の点数は、各回の結果の末尾に添えてある。

最後にこの点数だけの各回での平均値と標準偏差と、点数の範囲(最小と最大の値)を示した。これに自由記入欄に記入しなかった学生の数を添えた。

出席した学生は全員がアンケート記入していたように見受けられた。従ってもどってきたアンケート用紙の枚数は出席した学生数と一致する。この人数もnとして示してある。これをIV章の表3に示す。

数値が記入されているべき欄に記入がないか、又は本来数値が存在しない場合、たとえば教材を配布しなかった時に五段階評価の三の設問では-(マイナス)の記号を記入してある。

III. 健康教育学概論の講義要旨

健康教育とは何であろうか、そして健康とは何であろうか。健康教育を素直に解釈すれば、健康はかけがえのない程大事なものであり、健康教育はその大事な健康を維持し、さらに増進する為の教育であるという事になる。これには多くの疑問がある。まず健康が大事ならば、それを多かれ少かれ失ってしまった人はどうなるのである

うか。不幸にして生まれつき障害をもつ人や、疾病や傷害で後遺症を抱え込んでいる人、さらには癌の末期の患者で、あと三カ月の余命だと医師に診断された人には、生きている事さえおぼつかないのに、健康の維持・増進を説いても何の役にも立たない。どうやら健康の維持・増進は現在健康であると自覚している人の発想でしかないと思われる。

健康とは何であるのか、万人を納得させる定義は未だない。

そこで健康を一時棚上げして、健康も尊いのかかもしれないけれど、間違いなく尊いのは生命であると考え、大方の理解を得られるであろう。そして健康教育を生命を大事にする教育としてはどうであろうか。

次の課題は生命を大事にするという事は一体何なのか、どのようにして生命を大事にすれば良いのかという事になる。そこでまず我々はホモ・サピエンスとして分類される生物があると改めて自覚することである。原始的な暮らしをしていた我々の御先祖様が、厳しい環境で毎日生命維持の為に苦勞し、食糧を確保し、外敵から身を守り、天変地異から逃れ、そして子孫を残してきた。これはその環境に適應できたという事である。その環境に適應する能力は当然の事ながら我々も受け継いでおり、条件さえ与えられればその能力を発揮できる。条件とは生まれ、育つ間にしつけられ、鍛えられる事、即ち広義の教育を受ける事である。現代では、学校教育だけでは足りないのか、学校以外での教育が盛んで、専ら学科の勉強を子供たちは強いられているが、それは広義の教育のスペクトルの中のごく一部に過ぎない。この狭い教育だけで十分であるとは、未だ誰も証明してはいない。

社会を作っただけで生きられないホモ・サピエンスにとって必須の能力を身につける事を忘れ、目先の利益の為に、子供を誤った方向へ育ててはいないだろうか。まず必要な事は生命を維持する教育で、敢えて言えば、学校の教科では入試に縁の薄い、保健体育と家庭科であろう。

学校を離れた場として、同じ年頃の子供たちが群れて遊ぶ機会が奪われている。遊ぶというのが、実はまともな大人になる為の勉強をしているのである。ここでなぐったりなぐなぐたりのかんかを経験しておく、なぐられた時の痛みが分り、けんかは仲直りで終る事を学ぶ。規則を守る事を身につけ、成長してスペクトルの広い大人になる。頭を鍛える事も必須であり、体力を養う事も、人と共に生きていく事も欠かす事のできない事である。これを、知育、体育、徳育というのではないだろうか。知育に偏重しているように見受けられるが、それも答のある問題を解くに留まっていて、学校でしか役に立たな

い知育ではないのだろうか。生命の維持の為に、体力を極限まで発揮しなければならない機会は幸いにして多くはないが、疲れ、お腹がすき、汗をかき、のどがかわくの何故身体運動を人は好むのだろうか。それは人を襲う獣とたたかって勝った時、又はうまく逃げのびた時に、これで生きのびたと思ってほっとした気持ちになったのが、今でもホモ・サピエンスとして記憶に残っているのではないだろうか。

厳しい環境条件で生きのびるのは苦しみの連続であったに違いない。しかし苦しみの中に苦しみから解放してくれる楽しみもちりばめられている。それ故に生存ができたとも言える。この楽しみを我々は忘れてはいないだろうか。これは人体に備わった本能と呼ばれる機能である。もし空腹になったとしても、食欲がうまく働いてくれないと、空腹を自覚せず、動きつづけてやがて早晩死に至る。ところが食欲のおかげで、食事をする。その内容が、変りばえもしない粗末なものであったとしても、十分に空腹であるならば、おいしいと思ひ、満足できる。一日二回とか三回とか楽しい、苦しみから解放される機会である。十分にのどがかわけば、色も味もついていないただの水でも、おいしいと思うにちがいない。体を使って働いた後には、やはり満足感に浸れるであろう。ミレーの晩鐘に描かれている光景は、宗教を超えて、農民が自ら頭を垂れて満ち足りた気分で神に感謝の祈りを捧げるのが理解できよう。疲労した後の睡眠も快いものである。

病人が出たり、不幸にして死者がづついて出たり、子宝に恵まれないなど、好ましくない事がおきた時に、何か悪い原因があって、その結果として好ましくない現象が生じたのだと考え、その原因を除けば、結果を避けられると考えた御先祖様は、その因果関係を探り、断ち切ろうと努めたに違いない。そして、直立歩行で肩の上に乗って、発達の大きな可能性をもった脳が、現在の科学・技術を生むに至った。

次第に狭められてきた教育のスペクトルを一人前のホモ・サピエンスとなる為の広いスペクトルにもどす事は、解決の糸口すら見つけかねている多くの難問を解く唯一の道のように私には思える。よく難問にぶつかった時に、一旦原点に立ち帰って考えると、進むべき方向が見つかると言われる。我々の立場からは、原点とは原始的な暮らしを送っていた時代のホモ・サピエンスの生き方であろう。

以上のような事を医学部から教育学部へ移ってきて、健康教育を担当し、健康とは何か、健康教育とは何かを考えてつづけて到達したのが、健康を生命と読み替える事、

表 1 今日の講義について

199 年 月 日 時限

テーマ

※健康教育概論の授業の改善・充実をはかっていくための試みです。あなたの真摯な協力を お願いいたします。
(1. ~ 6. は該当する所に印、7. は素点をいれてください)

強く
そう
思う
思う
ど
ちら
と
も
い
え
な
い
そ
う
思
わ
な
い
全
く
そ
う
思
わ
な
い

- | | | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 私は今日の講義に興味をもって参加した。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 2. 視聴覚(黒板、OHP、ビデオ、スライドなど)の使い方は効果的だった。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3. 配布した講義要旨(資料)は有益だった。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 4. 講義内容はよく判るように説明されていた。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5. 学生の反応をうまく引き出していた。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 6. 出席しなかった学生にもすすめたい授業だった。 | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

※今日の講義についての感想、改善・充実のための提案などの自由記入欄

7. 今日の講義を総合的に評価すると、100点満点で 点ぐらいだった。

※この結果は集計していずれ何らかの方法で発表いたします。(M. T.)

表2 今日の講義について ー学生による授業の採点結果ー

健康教育概論（夏学期水曜第1限）東郷正美

		1 今日の講義に興味を もち参加した		2 視聴覚の使い方は効 果的だった		3 配布した資料は有益 だった		4 講義内容はよくわかっ た		5 学生の反応をよく引 き出した		6 出席しない学生にも すすめたい	
		x	SD	x	SD	x	SD	x	SD	x	SD	x	SD
1	4 / 14	4.0	0.78	3.0	0.39	—	—	4.0	0.71	3.3	0.81	3.5	0.83
2	4 / 21	3.9	0.87	3.1	0.99	3.0	0	4.1	0.61	3.2	0.91	3.6	0.80
3	4 / 28	3.8	0.83	3.4	0.73	4.1	0.70	3.9	0.68	3.3	0.77	3.6	0.81
4	5 / 12	3.8	0.90	3.5	0.80	—	—	4.1	0.60	3.5	0.89	3.6	0.93
5	5 / 19	4.0	1.00	3.6	1.09	—	—	4.1	0.74	3.3	0.83	3.8	1.08
6	5 / 26	4.3	0.75	3.6	0.77	—	—	4.4	0.51	3.6	0.87	4.1	0.64
7	6 / 2	4.2	0.94	3.3	1.14	3.0	1.15	4.0	0.95	3.5	1.00	3.8	1.11
8	6 / 16	4.0	1.00	3.8	0.93	4.3	0.85	4.0	0.82	3.4	1.19	3.7	1.11
9	6 / 23	4.1	1.00	3.5	0.93	4.6	0.51	4.1	0.79	3.8	0.94	4.0	0.95
10	6 / 30	4.2	0.83	3.8	1.03	4.4	0.51	4.3	0.62	3.5	0.90	4.1	0.90
11	9 / 8	4.2	0.91	4.6	0.50	3.5	0.76	4.0	0.89	3.3	0.80	3.9	0.57
12	9 / 22	4.1	0.99	3.4	1.09	3.7	1.03	4.3	0.69	3.8	0.81	4.1	0.78

原始時代のホモ・サピエンスを原点とし、当時と現代との教育のスペクトルを比較し、足らざるところを補う事が問題解決につながるのではないかと、ざっと以上のような大風呂敷を拡げて今日に至っている。これは健康教育が職業教育ではないので、かなり大胆で自由な発想が許される環境に身を置かせていただいたおかげだと感謝している。

まだ荒削りであり、欠陥だらけであるにちがいない。産業化が進んだ国でも、昔の慣習を大事に保存している国と、もはや忘れかけている国とをていねいに比較したり、産業化が進んでいない国ではどうなのかと、調べてみたいという思いにかられもするが、もはや定年退職一歩手前まで来てしまった。

以上のような骨子で講義を進めてきた。学生の中には共感して下さる人もいれば、批判的な態度の人もいる。しかし、私の健康感がさらに発展するか、あるいは跡形もなく消え去るかは、後の世代の人の判断に委ねる事である。

以上の中で、家庭科に関するものは寄稿を求められたので、文献3を参照いただければ幸いである。

IV. 学生の評価

A. 五段階評価による六項目の結果

これは、表1に示した設問に対する評価と数値に変換して、その平均値にして示した。学生がどのような判断基準で評価したのか、一人一人に聞いてみたいところである。しかしこれは無記名であるし、追跡することはしなかった。しかし、自由記入欄で、六項目の最高点がつけられなかったので、100点満点の点数が辛かったと述べた学生がいたので、夫々の基準に従ってくれたのであろう。無記名という約束だったので、アンケートから学生を特定することは一切しなかった。氏名を特定しないまでも、一回目にある評価をした人が二回目はどのように評価したかも、知りたいところであるが、これもしなかった。

もっと厳しい判断が示されるかと予想していたにも拘わらず、意外と高い点がもたらされたように思える。すべての学生とは言わないまでも、毎回まじめに記入してくれた人も多いことが実感できた。この結果を表2に示す。

B. 100点満点での採点

自由記入欄の記述は長くなるので、これを後にまわす。最初の授業の時に、アンケートの記入を求め、東大教授に点をつけるのは、きっと楽しいに違いないと冗談を言っ

表3 今日講義について -学生による授業の採点結果-
健康教育学概論(夏学期水曜第1限) 東郷正美

回	月日	n	x	S D	最高点	最低点	感想有
1	4/14	20(未記入4)	75.9	12.2	100	52	13
2	4/21	22	78.5	10.6	100	65	16
3	4/28	14(未記入2)	80.1	10.5	100	70	9
4	5/12	17	81.2	10.5	100	65	14
5	5/19	14(未記入1)	83.2	11.1	100	60	8
6	5/26	13	85.3	9.5	100	72	10
7	6/2	12	83.0	13.5	100	60	9
8	6/16	13	81.5	13.5	100	80	10
9	6/23	12	83.8	12.0	100	70	9
10	6/30	12	84.3	10.3	100	70	6
11	9/8	16	87.8	9.2	100	70	11
12	9/22	17(未記入1)	89.5	8.0	100	75	14
13	9/29	30(未記入16)	85.3	14.9	100	50	14

た。これも、もっと辛い点をつけられるのを覚悟していたが、意外にも高かった。このアンケートの生みの親である華表教授の経験では最低で100点満点で5点しかつけなかった学生がいて、平均点も低い時が多かったとお話をうかがっていたので、この平均点の高さは意外であった。自分の至らなさは十分に自覚しているので、これで自慢する気はさらさらない。しかし、この背景には、ひょっとすると、稚拙な技術は講義内容の意外性にまどわされてかすんでしまったのではないかと想像している。一寸待ってくれ、本当かよ……とまどったというかとまどわされた事も時々あったであろう。

学生により、判断基準に差があるのは当然として、同じ学生は常に同じ基準に従ってまじめに採点してくれたように感じる。採点結果を表3に示す。

C. 自由記入欄に記述された内容

これをどのようにまとめて紹介すべきかで迷った。この欄の内容は一番重みがあり、これを知りたくてアンケートに記入してもらったので、毎回読みごたえがあった。毎時間さらさら記入して提出し、退室する学生もいれ

ば、最後まで考えながら記入して最後に退室する学生もいて、夫々のアンケートに対する態度によって学生を分類できる。考えが及ばなかったが、自由記入欄への記述のないアンケートの、採点を転記していて、教卓の上に裏がえしにしてアンケート用紙を順に重ねてもらったまま、部屋に持ち帰った。これをトランプの札をきるようにはシャフルしなかったのが、提出が一番早い人のアンケート用紙が一番上になった。その結果が比較的高い点をつけた人が早く提出したのではないかと思われる回もあった。これもこれ以上詮索する事はしなかった。

前述したように、自分の好みで、内容を取捨選択することはしなかった。まずはここに記述された内容をもらいたい。

講義をした立場から、記述内容をみて、以下のような事を申し述べたい。

- ・その場で質問すれば、すぐに解決しようし、あるいはさらに議論が発展し、他の学生とも好都合な結果になったと思われるのに、それをせず、ここに疑問点を述べてある。毎回の授業でテーマを明記したので、毎回の読切りのように誤解したかもしれないが、考えてほしい事が一回の講義で完結するわけではない。姿を変え、形を変えてくり返し出て来て、最後に分るべき事は分り、現在でも神様のみがご存知で、誰もが分らない事は分らない事として残れば成功である。人間は今でもホモ・サピエンスであるという事実が、健康教育学の骨格を成すべきであるという事が分ってもらえるか、あるいはそれに代るべきものがあると言う結論でもかまわないが、十分に考えてくれればよい。疑問をもったからには、やがて自力で解答を見つける事も期待できよう。

- ・講義で話した事についての誤解がある。しかしそれは十分に理解させる努力を怠った自分に責任がある。従って、このアンケートの効果があった事が分り、次から誤解されないように話をしなければならぬ事を教えられた。しかしこれを話題として発言してくれればその場で誤解をとく事が出来た筈である。

- ・今迄つづけて出席していたものとして授業を進めてきた。休みがちな学生にとっては、不親切であったにちがいない。これも質問してもらえれば解決できる。

- ・しかし最終回の講義での復習はこれら問題の解決の為に役に立ったものと思われる。毎回出席した人にとっても、おさらいは考えをまとめる上でも良かったとの記述があり、これは成功であった。これで稚拙な授業も少しは救われたようである。

- ・東大生は批判させると実に上手である。批判に終わらないで、積極的に授業に参加してくれたらと思うが、ただ

質問はありませんかと学生の顔を見渡すだけでは不十分で、議論する雰囲気を作り出せなかったのは、何と言っても自分の能力の不足であったと責任を感じず。ただ学生が自分で創造せず、常に批判するのみで人生を終ってしまわないかと、人事ながら、おせっかいながら気にかかる。杞憂である事を祈っている。

- ・試験問題は、資料に示したように、自分流の健康教育の考え方の流れをつかんでいるかを問うたものである。従って毎回出席している学生にとっては容易に書けるものではあるが、ろくに出席しないで単位だけ取ろうとした学生には手も足も出ないものであった。毎回出席をとらなくても、出欠状態が手にとるように分った。試験についてもアンケートに答えてもらったのは正解であった。
- ・毎時間のアンケートの枚数から、出席しないで単位をとろうとする学生が多い事が表3で一目瞭然である。しかし多くの学生を引きつけるだけの魅力ある講義が出来なかった。

- ・自己をアンケートによらずに表現しなかったけれども、共感できる学生もいて、互いに切磋琢磨できた。

- ・アンケートで初めて分った事も多数あり、授業する側も受ける側も共に利益があったと確信している。

V. おわりに

教育学部の先生方にとっては、こんな事は敢えて実行してみなくてもすでにご存知であり、あるいは経験済みであるのかもしれない。しかし必ずしもそうでないと思われる節がある。そうだとすると、全くの素人がおこがましくも身の程をかえりみずにこんなちやちな事をしてしまった事になる。しかし王様が裸であるのを見抜いたのは経験の浅く、予備知識も十分には持たない子供であったという童話を思い出す。

副産物として意図しなかった事実が明らかになった。それは自分が何回講義したか、それに何人学生が出席していたかである。

蛇虫であるが、アンケートで切実な声として、朝の制限の講義はつらいという訴えが多くあった。この制限に選んだ理由は、医学部に居て、教育学部の非常勤講師として公衆衛生を担当した1980(昭和55)年度にさかのぼる。医学部の公衆衛生学教室関係者が歴代教育学部の授業を担当し、この年に私にお鉢がまわってきた。仕方なく引き受けた。そこで何曜の何限が空いているかを尋ねたところ、一限しか空いていないとの答であった。その頃は朝は十時ごろやってきて、お昼は持参した弁当、夕食は研究室が浅野キャンパスにあったので根津で食べ、

又研究室にもどり、午後11時以降は特別の許可を得ない限り、退室せねばならない規則であった。これは夜間実験中に、工学部の助教授が感電して死亡される事故があった為である。帰宅するのは午前0時を少しまわった頃であった。

このようなリズムで暮しているところで、都合の良い時間は自分たちで取ってしまい、よその学部の先生に非常勤講師を頼んでおきながら、一限しか空いていないとは何たる事と腹をたてたが、仕方なく一限に出て来ていた。しかも冬学期だったので、寒くもなれば朝もまだ暗かった。ところが不思議なもので、やがて朝おきるのがつらくなくなり、教育学部へ来ない日でも早く研究室へ出て、昼までの時間が長く、仕事のはかがいく事が分った。丁度老化現象が始まったのかと思われる。

そこで縁があって教育学部へ移って来たが、非常勤講師に来て下さる先生の為に、二限以降は空けておき、自分は一限に講義をする事にしている。

93年度にひきつづき、94年度も授業題目は健康学概論と変わったが、この授業と、今年度に初めて試みた発育学の講義の両方で、学生の授業評価を行なってきた。これを未だまとめていないが、昨年の経験から少しは進歩したのではないかと秘かに期待している。

稿を終えるに当たり、真剣にアンケートに協力して下さいました学生諸兄姉に心から感謝の意を捧げる。

文 献

- 1) 華表宏有 1992 学生による講義評価の試み 医学教育 23巻2号 103-109.
- 2) 華表宏有 1992 学生による講義評価の為の質問項目の検討—多変量解析の試み— 医学教育 23巻6号 371-378.
- 3) 東郷正美 1991 身体健康 家庭科教育 69巻9号 25-34.

資 料

1. 4月14日 講義のあらましと自己紹介

a. 肯定的な意見

- ・講義の題目だけでは、その内容は分りにくい、(「講義計画と内容」も含めて)。とくに概論の講義では、早い段階で内容・方向性といったあたりを念頭に置くべきかと思う。その意味で、教授御自身の経験を通して、健康教育の視点を持たせた気がする。ただ30~40分程度のお話であるためか、気がするというだけかもしれませんが。(一)
- ()内は100点満点の評価点、以下同じ。
- ・人生には決まった道はないという意外な感想をもててよかった。(90)
- ・教官の声が聞きとりづらかったので、もう少しはっきりとしゃべってほしいと感じた。自分ひとりたてて関心があって今日この場に来たのではなくて、他にこの時間にとるべき講義もなかったの、様子見のつもりでここへ来た。健康教育学と

いうものの具体像について何の予備知識もない自分だが、「健康教育」ということばが「健康」な人にとってのみ意味をなすことばだという指摘には心魅かれる思いがした。「教育」の専門家ではないという経歴を逆に生かすようにした授業を行っていけば、却って興味深く聞けるのではないかと思う。(75)

- ・今日はガイダンス的な内容だったので、次回からの講義を楽しみにしています。(80)
- ・講義内容は分りやすかった。今後の講義予定を教えてください。(75)

b. 否定的な意見

- ・今日の講義には、何かインパクトはなかったように思います。(60)

c. その他

- ・今日は授業の初めだったので、何ともいえません。(一)
- ・全く関係ないが、一限はつらい。(52)
- ・昔の鉱山の労働環境にかなり興味を持ちました。(65)
- ・明るく元気良くやりたいです。朝は眠いから。(75)
- ・ガイダンスを評価しろというのが無理なものだと思うのですが。(一)
- ・健康教育学的には、宗教というものは大切なのでしょうか。(特に日本では様々な宗教があり、信者の方々の心の支えになっていると思うのですが。)(95)
- ・今日の段階ではまだ何ともいえませんが、やはり視聴覚機器は多く用いると効果的だと思います。(85)

自由記述欄に記述のない人の評価点

100, 80, 90, 一, 60, 70, 70, 70, 80, 70, 75

2. 4月21日 健康教育の基礎と応用

a. 肯定的な意見

- ・人間の健康についてだけでなく、動植物や環境など人間の生命を維持する為の条件について、幅広い視野からの講義で興味深く思いました。(80)
- ・健康教育とは何なのかよく分った。自分がこれまでに受けてきた環境教育、道徳教育、平和教育も関係があり、無駄にならないことを知って嬉しい気分だ。今後もやらなければならない学問が多いなという気がした。(80)
- ・障害について話されたが、全くその通りだと思う。障害のない人はいないと思う。もしそう思える人がいたとしても、必ずどこかに人に劣るところはあると思う。僕は他の人より比較的障害の多い方だと思うが、それなりに努力してカバーしていきたいと思う。(70)
- ・健康教育という一つのテーマを考えることから、多様な学問領域に広げられると分って感心した。(77)
- ・先生の講義以上に充実できるものは今のところは考えられない。例のある説明は印象深い。しかし内容は多すぎて、それぞれについて全部例をあげるのに時間が足りないようなので、二回の授業に分けたら、もっと充実してほしい。(90)

b. 否定的な意見

- ・健康教育の範囲がここまで広がってしまうと、とらえどころがなくて不安な気がする。(65)
- ・資料等で具体的な実践についての説明があれば良かったような気がします。徹夜明けの私には辛かったです。(65)
- ・話として聞いている分には、あななるほどなあと思うのですが、これといったはっきりした結論だとか定義とかが無いことに少しあまいさをおぼえました。(80)
- ・健康から生命への読み替えによって健康教育学の視野を広げる観点に感銘を受けた。しかし同時にそうすることで、環境教育や死の教育、道徳、倫理教育まで、もし手を上げようとするならば、何故にその時に人間あるいは人類が、そこでの主役になり得るのかという問いが発せられる必要があるのではないだろうか。人類エゴイズムの問題に対する健康教育学

- からの答えはどうなるのか。(90)
- 健康教育に様々な側面があることはよく分りましたが、黒板のあちらこちらに重要なことばが出てくるので、ノートをとる時少し困った。(90)
- c. その他
- 私は例としてとりあげられたエイズやフロンのことなどに興味を持っていた。医学やその他について様々な事例をきかせていただけると嬉しいです。(65)
 - 今ふと思ったのですが、機械などの無生物にも命があると考えられる場合もありうるのではないのでしょうか。これはあまり健康教育と関係なく、ものを大事にしようという道徳教育そのものと化してしましますが。(75)
 - 今日は郵便局へいかねばならなかったので、遅れてすいませんでした。(70)
 - 現在見原益軒の養生訓を読んでいます、あれは講義の健康教育そのものな訳ですね。(75)
- 自由記入欄に記述のなかった人の評価点
100, 80, 90, 95, 70, 70
3. 4月28日 健康問題の原点 原始時代の人の暮し
- a. 肯定的な意見
- たいへん興味深い話だった。(70)
 - 人間がなぜ目が見えるようになったのか、或は言葉が喋れるようになったのかは、もっと追求してみたい面白い話でした。(85)
 - 淘汰ということについて些か考えます。(一)
 - 内容はとても豊富で、原始時代のヒトの生存方法を目の前に再現するような説明で、とてもいきいきした授業だと思う。(100)
 - 女の先生がよくしてるようにしゃべる授業にくらべて、先生のテンポの方が私にはしっくりきます。(75)
 - テーマがおもしろかった。(78)
- b. 否定的な意見
- 生命の起源、進化と健康および健康教育とのつながりがまだよく判らないので、また別の機会に解説してください。(75)
 - テーマに沿った話題にされた時間が少なかったように思う。視力の話は興味深かった。(70)
 - 毎回テーマが決まっているのに、テーマを毎回先結させるような講義内容になっていない。(78)
- c. その他
- メガネをかけている利点は何ですか。砂漠に住む人の視力が3.0ぐらいあるそうだが、日本の環境下でも訓練によって、それほどの視力がえられるか。(85)
- 自由記入欄に記述のない人の評価点
100, 75, 90, 一, 70, 70
4. 5月12日 原点と現代の比較
- a. 肯定的な意見
- 私も昔から体育が大好きだったので、これからも生活に何か役立っていくだろうという確信が持てました。体を動かすことは体の健康とともに心の健康のためになると思います。(80)
 - 人間の原点について、今日は体力の話でしたが、身体運動が人間生活の基本にあることは確かであると思いました。円を描いて歩くこと、三角形を描いて歩くことに喜びの感情を持って参加できる子供は、幾何の勉強がよくできるようになるそうだが、数学のような勉強の基礎にも、体を動かすことへの満足感が存在しているようです。(90)
 - 満足感が大切だと思った。(60)
 - 体育がきらいな子どもが多いのは体育の授業に問題があるというの、その通りだと思う。ただ最近とくに運動自体がきらいな子供がふえているのも事実だと思う。それは学校の体
- 育だけに責任があるとも思えない。これはかなり深刻な問題だ。(70)
- 体力というのは身体運動、スポーツなどの他に病気になりにくいという見方もあるのではないのでしょうか。私はやや体育嫌いでしたが、中学の体育からダンスの授業が入って、好きになりました。好きになると、走るのも前よりずっと速くなりました。不思議です。(80)
 - 中学の体育の授業は、前半で基礎技術、後半は実際にゲームをしました。3年間同じ先生で、3年になると毎時間ゲームだったので、体育が好きでなかった私も、多少は体育の授業が楽しみになりました。(76)
 - 体育の教師が運動のできない子どもに理解を示してやらないことがあるという示唆は非常に重要であったと思います。(85)
 - 原点と比べ、現代においては体力と生命の関係をうまく説明したと思う。体育や他の科目がうまくいかず、劣等感をもってやる学生にとって、少し勇気が智恵が与えられたような話をありがたいと思う。(95)
 - 昨年の講義と比べると(という正体がバレる)取り上げている内容がより具体的で、身近な話題になっていると思う。自分にとってはとっつき易かった。(75)
- b. 否定的な意見
- 講義内容そのものは分りやすかったが、テーマと内容との関連について焦点がぼやけている。言いたいことが十分に理解できなかった。(75)
 - 話はおもしろかったが、テーマから少し離れていた。そもそも原点を考える意味がまだいまいち分らない。(88)
 - 不登校はやはり学校の先生の教育が悪いからなのか。私の出身中学校の先生は全国教育大学附属の生徒で非行に走る者はいないと自信を持っていた。先生の努力の成果だったと実感した。(しかしその先生は国語の先生で、私が国語が苦手だったのはなぜだろう)。(95)
 - 身体運動の後に得られる満足感など私は欲しくない。スポーツをしたいと思うのは、その最中に満足感が得られる場合である。耐える為の困難でしかない運動なんか、やりとげたところで大して役には立たない。(65)
- c. その他
- 子どもが見た世界の体育授業を偶然にも昨年まで読んでいました。因みに体育教師志望です。
 - 講義は9時から始めていただけるとうれしいのですが。(75)
- 自由記入欄に記述のない人の評価点
90, 100
5. 5月19日 原点と現代の比較 2
- a. 肯定的な意見
- よく咬むことは大切だと思った。(83)
 - 視力や肥満について気をつけねばと思っていたところなので、実生活で参考にしてみようと思う。(一)
 - 咬むことの重要性については、自分が教壇に立った時に扱ってみたい内容だった。(75)
 - 近視や虫歯に対して新しい視点ができた。大変分り易く、興味深い話だった。早起きの甲斐はあった。(90)
 - 実際の生活の中で役立ちそうなものだったので、興味ももてた。自分によく咬むのに虫歯があり、外に出て空を見ているのに近視で、ゆっくり食べるのに太ってしまう。があきらめずに、未来の子供の為に実践します。(85)
 - 虫歯と近視と肥満との関係についての説明はとても新鮮なものだ。身長が急速に伸びるときに仮性近視がおきるという話を聞いた事がある。小中学校では視力が低下すると病院で治療しなさいと言われるが、今日の授業の内容を将来教師になる人に教えておいた方がよい。(95)

b. 否定的な意見

- だんだん講義内容に魅力が感じられなくなってきた。朝一限の授業は辛い。来週からの講義に期待したい。
- サルとヒトの話が出てきたが、資料を用いるなどして、教育と関連づけていけば、もっと深い議論ができた。(80)
自由記入欄に記述のない人の評価点
100, 90, 90, 80, 85, 70, 92

6. 5月26日 原点と現代との比較3

a. 肯定的な意見

- 今日の講義は面白かった。現代の学校教育や入試制度が持っている問題を違う角度から見ることで、視野が広がった気がした。(85)
- 今の学校教育・入試などで求められている学力には私も疑問を感じている。基本的な事柄もできないのに、教科の知識ばかりの頭でかちの人間があふれてしまうのは不気味だ。(80)
- 内容はとても豊富で、哲学的表現でわかりやすい。ありがとうございます。その1~その3までで、体、知、徳の三つの面の共通点をまとめて説明し、印象に残った。(100)
- 原点と現代の比較から現代の問題点を探るという枠組みで分かりやすい授業でした。ルイジアナの(留学生の射殺)事件の判決は、銃の所持について何の改革もする気がないということにつながる。持たないと危ない状況を、警察が変えなければいけない。この判決は、そういう警察の義務の放棄だと思う。(アメリカはどう考えているのか分らないが)。州や国が無責任だ。(85)
- 知識というものを健康教育の観点から考察したのはおもしろかった。知識は情報という形で世代を越えて伝わる側面もあるので、そういう部分の話も聞きたかった。
- 話された内容が、自分がおぼろげに抱えていることと一致するので、分かりやすかった。こういう内容は是非小中高の教壇に立って説くべきで、東大の小さな教室で行うのに勿体ないと思う。青年海外協力隊で体育部門がかなり重きをなす理由が、やや分ったような気がしてきた。同時に日本の教育を変えねばならんと強く思う。(85)

b. 否定的な意見

- 個人的にははじめは始める側に問題があることが多いと思う。(78)

c. その他

- 薬草では、毒が人間にプラスに働くのでしょうか。(100)
- アメリカでの留学生射殺事件については、判断のむづかしいところだと思う。銃についての社会的認識の差であろう。日本人は自分のからだ(国家)を他人(警察やアメリカ)によって守ってもらっているのではないか。(70)
- 原点と現代を比較することにより、現代の問題点を改めて認識した。たしかに生物進化の過程、特に猿人から原人への進化に要した時間にくらべて、あまりにも速く科学の進歩で生活が便利になった為の弊害である。ただ昔に比べて、それ以上のメリットがあるのも事実で、時代と共にメリットは蓄積されてゆく、結局はたちごっこではないのか。(80)
自由記入欄に記述のない人の評価点
100, 90, 80

7. 6月2日 原点と現代の比較4

a. 肯定的な意見

- 不満に対する考えや、腹式呼吸に関するところは何となく哲学的でおもしろかった。(72)
- 今日の講義は、ひっ迫したテーマだったので、ストレス解消の為の有益な示唆が得られ、大変有益であった。(80)
- 現代人はストレスというものを軽視しすぎている。会社の為でなく、自分の為に働く時期である。私はたいしてストレスのかからない生活をしているけど、週に3回は体を動かし、

- よく眠っている。(80)
- 自律神経やストレスにまつわる話は興味深かった。私自身も自律訓練を受けていたこともある。人間の自然治療力への着目も大切だ。薬に過信している人が多い。脳内麻薬物質も最近薬物乱用を調べたことも手伝って興味がひかれた。もう少し詳しく聞きたかった。(90)

- 体を動かすことは重要である。しかし度を過ぎるとマイナスになる。運動量とか運動負荷がストレス解消に最適な量になるように決める事は大切である。(75)
- ストレスの解消は交感神経から副交感神経への切り換えという説明はよかった。回虫の罪と効の例もよかった。どんな事でも両面性があるとの考えは、生活のいたるところに適用できる。本当にありがとうございます。(100)

b. 否定的な意見

- 講義の中心が分かりにくい。ストレスの自覚や、胸式・腹式呼吸について、原始時代の人はどうだったのだろうか。(70)
- お忙しい内を講義して下さるだけで非常にありがたく思います。あえて申し上げるとすれば、授業に魅力を感じることができなかったと思います。(60)

c. その他

- 質問 βエンドルフィンはどうのように分泌されるのですか。また昔よりも生活にゆとりがでてきた(特に仕事も子育てもない人など)現在では以前ほど幸せを感じない人、疲れない人がふえているが、βエンドフィンの分泌量が減っているのでしょうか。また食べ放題のレストランの人気があるのは人間の食欲に関する事態が不十分だからなのでしょう。食べものと金銭感覚が繋がって、もったいないと思うせいは考えられないでしょうか。(99)

自由記入欄に記述のない人の評価点

75, 95, 100

8. 6月16日 現代の健康水準(1)

a. 肯定的な意見

- 同じ指標でも読み方によって問題が分ることに興味がある。
- 前に年令別の死因の表を見たことがある。その表を見て20-35才(40才?)の死因が自殺が一番多かったので、おどろいたのを覚えている。年齢による死因のちがいを考えるのもおもしろい。(70)

b. 否定的な意見

- 老人の自殺率が高いのはどう理解すれば良いのか。(65)
- 他の国の健康水準との比較をしてほしい。(75)
- 成人は感染症にかかりにくいのか。青年がかかりやすいのなら、成人がかかりやすくてもおかしくはないと思う。(95)
- 花も実もある青年期に病気にかからないのはたしかに幸せなことである。防げるかもしれない成人病にかかるのが良いことだとは決して言えないだろう。(70)
- 興味深いとは言えない。資料もどこかで見たことのあるようなもので、新鮮味がない。(60)
- 感染症が減少した背景をもっと詳しく知りたい。(82)
- 平均寿命の向上と成人病による死亡の増加の両者には相互関係はあるかもしれないけれど、平均寿命の向上は良いことだから成人病による死亡の増加も良いことだというように価値観まで共通のものと考えるのはどうかと思う。(85)

c. その他

- 私が初めてスギ花粉症になったのは、受験で東京に来た時だった。合格発表まで神戸にいた間は全くおさまっていた。東京など大都市に住むのは健康に良くない。(73)

自由記入欄に記述のない人の評価点

95, 100, 95

9. 6月23日 現代の健康水準(2)

a. 肯定的な意見

- ・やっ和健康教育学の意味が少し分ってきたように思う。(90)
- ・1-4才の死亡率が意外に高いのは驚いた。低い国々ほどのように配慮しているのか。日本にずっと住んでいると、特に日本の母親に配慮が無いなど感じなくなっている。(90)
- ・一人子が増えた。子供に手をかけすぎている。ぬれても不快感のない紙オムツが鈍感な子供を増やしている。勤ちがいをしている母親が多い。感染症がへり、成人病が増えたことを考えてみると、健康に対する意識がおかしな方向へ向かい、神経質になったり手抜きをしたりしていて妙だ。(75)
- ・1-4才死亡率が高いのは核家族化によるものだと思う。経験の浅い若奥さんよりも経験豊かなおばあちゃんの目がゆき届いていればこんなに高くないはず。僕の田舎では直系家族が暮らしていて、どの家にも池の一つや二つはあるが、死亡などない。(70)
- ・産業の発展と軌を一にして、日本がなかなか死なない国になってきた様子がよく分った。ただ幼児の不慮の溺死がこれほど多いとは知らなかった。(70)
- ・狭い道など幼児にとって危険な環境は積極的に改善されているのか。(71)

b. 否定的な意見

- ・日本で1-4才死亡率が高いというのがピンとこなかった。日本人は過保護であるように思えるが、安全の為に保護はできていないということか。(75)
- ・各指標がどのように生かされているのかを聞きたかった。がんの予防法にも少しふれてほしかった。資料の表に、考察すべき点を書き加えてほしい。(75)
- ・表と図が多く、順番がばらばらなので、どの表の説明か分かりにくかった。ページと表の番号を述べてから説明に入ってほしい。沢山の内容の表の読み方、表と表のつながりなどを教えてもらってよかった。(98)

自由記入欄に記述のなかった人の評価点

96, 95, 100

10. 6月30日 健康水準(3)

a. 肯定的な意見

- ・平均寿命の計算方法がていねいに説明されてよく分った。年令別にみた外来受療率の年代比較の説明も興味深かった。(79)
- ・簡易生命表をこまかく見ると、興味ある数字が並んでいる。たとえば0週の死亡数が多いのは分るが、1週~3週に減少した後で4週で急激な増加を見せること(男女とも)、83才までの死亡数は一貫して男>女であること、とくに15-25才では2倍も開きがあることなどについて考えてみるとおもしろいと思った。(70)

b. 否定的な意見

- ・先生のプリントは大きすぎて、ファイルにしまいにくい。B5又はA4サイズを希望する。(80)

c. その他

- ・ふと戦時中の生命表などではまん中が大幅に低かったのだろうか疑問に思った。(85)
- ・感染症をへらしたり、助からない病人と話したりして、寿命を伸ばす努力が効を奏したか、逆にそれによって安楽死、脳死などが起きてきた。世界一の長寿国である日本こそが、そうした医療の倫理的な問題に積極的に取り組まねばならない。(80)

自由記入欄に記述のない人の評価点

100, 80, 95, 74, 75, 96

11. 9月8日 発育について

a. 肯定的な意見

- ・内容はとても多くて、おもしろい。(100)
- ・時系列解析のあたりがよく理解できなかったが、その他のグ

ラフは判りやすかった。(79)

- ・スライドの使い方は効果的だった。グラフは判りやすいが、文字が小さくて見えなかった。(90)
- ・先生が特に研究していらっしゃるテーマなので、これまでの授業よりも実際的で判りやすかった。(95)
- ・今日の講義が、いままでの中で一番良かった。(100)
- ・先生の実体験からの導入が良かった。(75)
- ・先生のライフワークということで興味を持ってスライドを見た。私自身1年間に数回身長を計ると、時によって伸びたり縮んだりするが、単なる計測ミスではないように思っていたが、そうではないことが分った。自分の子供の発育を詳細に調べたらおもしろいだろう。(90)
- ・実験、計測やその結果の分析というのは、このようにやるのだということが、具体的によく分った。自分が実験を行うようになった時、参考になると思う。最後の話は、細部に立ち入りすぎて、わかりにくかった。どうやらどの先生も自分の専門領域の話になるとこのようになる傾向がある。(95)

b. 否定的な意見

- ・数学関係の話が分らなかった。(80)
- ・スライドが映した資料をコピーして欲しい。(80)

c. その他

- ・夏に体重が増えると肥満につながるの、日本と季節の異なるオーストラリアや東南アジアではどうなっているのか。熱帯地方では栄養不良の子が多いのは気候の影響も強いのか。P.S.感想は書かなくても、ちゃんと聞いていないとは限らない。その時の話題や印象に残ったこと、考えたことなど自分の興味や関心によって書いたり書かなかったりすると思う。(92)

自由記入欄に記述のない人の評価点

98, 74, 90, 80, 90

12. 9月22日 おさらい

a. 肯定的な意見

- ・私は小さい頃から夏でも冬でも外遊びばかりしている子供だったので、今日の話聞いて嬉しくなりました。最近の方が文明を持った生活をしているので、私の場合原点にもどる=小さい頃にもどるを目指そうと思いました。(90)
- ・半年間も授業がつづく、はじめの頃の内容などは忘れていくことがかなり多く、その意味でおさらいはとても有益であったと思う。最後におさらいをする授業は他にはなかったもので、ぜひ続けてください。(85)

- ・健康=生命という主題がよく理解できたと思う。
- ・おさらい、とくに最後のまとめによって、先生がどうして原点にもどって健康教育の話をしていたのかが分かりました。(95)

- ・健康教育を生命教育と呼びかえるときの矛盾の解消について、原始的生活と現代生活を対比することによって、文明生活の問題点を浮き上らせることについて等、先生の考え方が簡潔にまとめられて理解しやすい授業だったと思います。(90)

- ・自分がこれから生きていく上で、自分なりにどう生きていいのか考える良いヒントになりました。(一)

- ・今回の講義に関しては、たいしたことではありませんでしたが、学而時習之の下線の部分はただ復習するのではなく、実生活の中で学んだことの活用場合を発見し、内容を再認識するという意味だと思います。(浪人時代に個人的に論語を読んだので)、TVなどで、もっと多くの人に向けて話したら良いと思う講義内容でした。(75)

- ・クーラーと肥満の関係はおもしろい。その他にも、大気汚染、食品添加物、ストレスなど、原始時代にはあまりなかったものが増えてきているので、やっぱり自分の次の世代の健康が心配です。(88)

- ・人間がその人生をずっと一生健康で過ごせる事はなく、かせ

をひきもするだろうし、怪我もしよう。極論すれば、人間だけに限らないが不健康とつき合って生きていくべく宿命づけられているのではないかと思う。不健康の延長に死がある訳ではなく、生と死とは全く別の座標のものだと思う。(95)

- 今日の授業がまとめてあった為かもしれませんが、有病率が高いことは、違う角度からみると、寿命が長いことであるということでは有病率が高い事は寿命が長い事の結果であり、有病率が高いから寿命が長くなったわけではない。つまり有病率が高い⇔寿命が長いという関係は必要十分条件でない。今日のお話の流れだと、有病率が高い=寿命が長いと感じたのでおたずねします。

P.S.大学に通いだして、完全に最後までできた授業は、これからはじめてだったような気がします。(5年目にして)。はじめて人にノートをかす責任感を体験しました。ただなれないことなので、調子がくるってしまいます。(100)

b. 否定的な意見

- 黒板の字を濃く書いてほしい。(90)
- 最後に学生の意見を求めたが、授業中にもっとDiscussionのような感じで、発言をうながせばよいのではないのでしょうか。(78)
- 黒板の字が薄かった。(75)

c. その他

- 集団形成が時代と共に変化している点を、原始時代に学び原点考察を上手に調整していくことが大切だと思う。(87)

自由記入欄に記述のない人の評価
95

13. 9月29日 学期末試験 今回は今日の講義についてではなく、今日の試験についてである。

試験問題

1. 健康教育をどう理解すべきか。根拠を付して東郷流の理解に対する批判も歓迎する。
2. 現在直面する健康上の難問のうち、原点に立ち帰って考えと解決の糸口が見つかる一例について述べよ。

a. 肯定的な意見

- テストがあって良かったと思う。短い時間の中で、一生懸命に講義を思い出し、復習になり、又自分の考えを添えなければならぬので、良い勉強になった。日本語で早く答案を書くのは楽ではないと感じた。(一)
- 講義に出席していなかった人には非常に難しいであろうと思われ、良い試験でした。眠気をこらえて出席した者の勝ち。(75)
- 具体的な細かい知識を求めておらず、比較的とっつきやすい出題で、良かったと思います。(一)
- 基本的に知識をもとに考えさせる問題だったので良かったと思います。持論をもとに考えを押しつけるのではなく、批判も受けつけようとする姿勢がみえて、いい問題だったと思います。
- 試験については、このように記述式にするのが私は好きです。私は毎回けっこう70~80点と辛い点をつけていましたが、それは五段階評価での5がやや足りなかったからだと思います。内容はかなり良いものであったと思いますが、講義自体が少々単調だった気もします。講義だからやむを得ない部分もあるのでしょうか。あと、やはり一限はつらいです。
- 細かい事柄について聞かれなかったのが良かったです。テストというよりも自分の考えている健康教育や、原点を見直すことのまとめの場であったような気がします。今日のようなテストの方が、あの時はあんなふうと考えていたけど、今はこう思っているか思い出せて、将来につながっていくと思います。それにしても、毎回一限はつらかったです。先生もでしょうけど。(一)

- 抽象的問題と具体的問題の両方が出題されていて、適切である。話では理解できても、抽象的なものをいざ文字に表そうとするとかなり難しい。(一)

- 1は講義そのものの意義を問うているので良い問題だと思います。ただ2はおそらくあの講義で話したことについて書けば良いという予測がついてしまって面白味がないと感じました。予測しておきながら間抜けな答えだったりすると情けない。(一)

- とても良くできた問題だった。(100)

- 自分の考えを素直に書いてよかった。試験というより意見を書く感じで、受験勉強を長年やってきた自分にはとても新鮮で有益なものであった。(100)

- 半年間でしたが、おもしろかったです。だいたい8:30にもなれました。

P.S.ついに五段階評価のその3、資料について、資料がない時の為にならないという欄を作って下さいませんでしたね。P.S.食中毒で日曜からねてました。でも全く体重が変化せず、改めて人間の体のメカニズムの複雑さを感じました。(100)

- 試験で健康教育についての考えを書くことによって、自分の考えを再認識させられた。(一)

- 問題は幅が広いので良かったと思う。(単位だけは頂きたいと強く強く思っておりますので、何とぞお願い致します。)(一)

b. 否定的な意見

- 一番で考えすぎて時間を使った割には意見がいまいちまとまらなかった。もう少し出題内容をしばってほしかった。(79)

- 細かい内容であるが、問二について、もう少し言葉を補い、問題解釈が平易となるようにしていただきたいかった。即ち直面するのは誰なのか、解答者なのか、日本人なのか、人類全体かというようなことである。(80)

- 黒板の字はうすい。問題はプリントで配布して下さい。(70)

- 試験の問題を読み易くしてほしい。黒板の下の方が人の背中で見えなかった。(100)

- 1限の試験はきつく、頭が働きます。試験時間は正規の時間とちがってもよいのでは。(一)

- 健康は生活していく上で大切であるが、ばく然として、考えるのはむづかしい。(85)

- テーマが大きく、扱う範囲が広い上に二題もあり、言いたいことが書きつくせずザンネムネン。(90)

c. その他

- 講義にさえ出ているれば書けたろうが、出ていなかったのが当然のことながら書けなかった。(一)

- 1-2年のときの試験は、出題の範囲があり、そこを勉強すればよかった。現系だった為かもしれない。今回のテストはそうではなく、不断の授業をよく聞いて、自分の意見をしっかりと考えていないと分らない問題でした。一寸文を書くのが苦手なので難しかった。(一)

自由記入欄に記述のない人の評価

100, 90, 75, 50, (一) 4名